

第 25 回日本医療マネジメント学会学術総会

口頭発表

専門医療機関連携薬局が 1 年間に行ったがん治療に対する薬学的介入の実態調査について

総合メディカル株式会社 そうごう薬局 天神中央店

本田 雅志

【目的】専門医療機関連携薬局は、がん等の専門的な薬学管理に他の医療機関と連携して対応できる薬局として、2021 年 8 月から始まった薬局の認定制度である。同年 8 月に認定されたそうごう薬局天神中央店（以下、当薬局）は、以前より外来がん治療専門薬剤師を中心として、薬薬連携の強化やがん患者に対する応対手順標準化など、多くの取り組みを行っている。今回は、外来がん薬物治療への薬局薬剤師の貢献度を評価する目的で、医師へ処方提案を行った事例について、1 年間の介入報告を調査したので報告する。

【方法】2021 年 6 月～2022 年 5 月に来局した患者で、ホルモン剤単剤治療を除く外来がん薬物療法に関して医師への情報提供および問い合わせを行った内容を「疑義照会」「トレーニングレポート（以下、TR）」に分類し、それぞれの件数、提案内容の採択の有無、転帰を調査した。なお、TR とは緊急性は低いものの、処方医に伝える必要があると判断した情報や提案を薬剤師から医師に伝える文書である。

【結果】該当期間内に、外来がん薬物治療患者 392 人が延べ 2,286 回来局した。集計結果より、処方提案を伴う疑義照会は 47 人に 49 回行い、提案を採択し処方変更となった（以下、採択）件数は 34 回（69.4%）であった。また、TR は 222 人の患者に対して 550 件提出していたが、その内処方提案は 60 人に対し 108 回行い、採択件数は 59 件（54.6%）であった。採択後、転帰が改善もしくは現状維持と判定できたのは、疑義照会で 27 件（79.4%）、TR で 51 件（86.4%）であった。疑義照会および TR を通して、改善もしくは現状維持に貢献できた外来がん薬物治療患者は 47 名（12.0%）であった。

【考察】今回、専門医療機関連携薬局の薬剤師が、高い専門性を活かして医師への処方提案を行うことで、外来がん薬物治療に大きく貢献できたと評価した。今後さらに複数の専門医療機関連携薬局を対象に同様の調査を実施し、薬剤師の介入成果についてより詳細な分析を行いたいと考えている。